

エネルギー問題に発言する会、10年の歩み

平成23年12月18日 代表幹事:林 勉

- **事始め:** 原子力有志囲碁会終了後の飲み会で推進派が声を上げられない現状を憂いた愚痴話がきっかけとなり、愚痴に終わらせずに世の中に広く伝える会を結成すべしとなった。とりあえず実行のための纏め者として林が指名された。この時のメンバー(敬称略)石川迪夫、天野牧夫、池亀亮、益田恭尚、澤井定、水町渉、林 勉

- **発起人会:**

まず全国展開の活動を志向することから。メーカー三社、電力、研究所等の20名程度で発足することを決定。呼びかけに応じた発起人は下記。

(日立): 荒井利治、加藤洋明、小林弘昌、杉野栄美、林 勉

(東芝): 阿部進、小川博己、小川修夫、後藤征一郎、益田恭尚、水町渉、宮沢竜雄

(三菱): 石井亨、岩井正三、松岡強、安井元一 (IHI): 天野牧男

(原研): 石川迪夫、澤井定 (東電)池亀亮:(この時点では参加表明なし)

第1回:2001,10,10 第2回:2001,11,8 第3回:2001,12,7

- ・趣意書の検討 ・会の名称の決定 ・基本方針の検討 ・代表者はおかないこと
- ・ボランティア活動に徹すること ・会員資格の検討 ・HPの検討
- ・各種資料、情報の検討 ・会則の検討
- ・会場をNUPECのご好意で無償使用の許可をいただいたこと 等

エネルギー問題に発言する会設立趣意書

平

成13年12月7日

前文略

長年エネルギー産業の実務に携わってきた私達の心配は、多くの国民(サイレントマジョリティ)がエネルギー問題に関心を持って、正確で十分な情報に接することが出来ず、十分な国民的論議がなされないままに偏ったマスコミの論調が一人歩きをし、国の根幹に関わるエネルギー問題の方向性が形成されていくのではないかとあります。第二次世界大戦前夜のわが国の状態がまさにこのような状況に近かったのではないのでしょうか。このような懸念を少しでも払拭するためには、私達の積極的な発言がいまこそ必要と考えています。

もちろん私達の間でエネルギー問題は常にその見解や意見が一致するものではありません。しかしながら少なくとも人の生活においてエネルギーの確保と安定供給は必要不可欠であり、またエネルギー資源に乏しいわが国にとって、原子力は現在においても、将来においても基盤エネルギーとしての地位を確保し続けることになりましょう、これがまた地球温暖化抑制の面からも重要であるとの認識は共通のものであります。

私達はこの共通認識の上に立脚しながら、多岐にわたるエネルギー問題に対して、私達個々人の多様な意見を社会に発信して参ります。

エネルギー問題に発言する会会則

1. 目的

多くの国民にエネルギー問題を正しく理解し、判断してもらうために、長年原子力の実務に携わってきた立場から積極的な対外発言を行う。

2. 活動方針

- (1) 原子力を中心としたエネルギー問題全般につき、一般メディアへの発言、関係官庁への意見具申などを積極的に行う。
- (2) 発言は会員個人の自由意志のもとに個人名にて行うことを原則とする。なお署名欄には当会の名称を付記することが望ましい。
- (3) テーマによっては会としての統一見解をまとめる。
- (4) 会は会員個々の活動に資するために適宜必要な情報・資料を提供すると共に会員相互間の交流を図る。

3. 活動内容

3.1 対外発言

- (1) 新聞、雑誌等にエネルギー問題の意見投稿
- (2) 新聞、テレビ等の偏向報道への意見具申
- (3) エネルギー政策に関わる意見公募に投稿
- (4) 原子力行政・規制当局への意見具申
- (5) エネルギー問題をテーマとするインターネット掲示板等への発信
- (6) エネルギー教育に関し、関係団体、教育機関等への意見具申

3.2 会の運営

- (1) 会としてのホームページ(HP)を設け、対外的に当会の存在をアピールするとともに、会員相互間の交流・情報伝達の場とする。HPの運営規定を別に定める。
- (2) 会員の活動に資するために下記サポートを行う。これらはHPに記載する。
 - ・会員の発言内容の紹介
 - ・参考資料、必要情報の提供
 - ・発言の場の紹介。
- (3) 適時、運営委員会を開催し、「5. 運営委員会」に規定する審議を行う。
- (4) 会に運営事務局をおき、「6. 運営事務局」に規定する業務を行う。

4. 会員
5. 運営委員会
6. 運営事務局
7. 来歴

● **主要な記録**

- ・第1回、会則の決定(個人の発言とする基本方針)、会員の拡大募集、HPの作成等
- ・第2回、「発言する会」発足のPR決定。
東芝系新入会者; 15名(含、伊藤睦氏、石井正則氏)
- ・第3回、経産省報道室での記者会見決定、電気新聞の運営委員会取材決定
新入会者: 3名(含、松永一郎氏)
- ・第4回、新入会者: 26名(含、天野治氏、土井彰氏)
- ・第5回、座談会(会員持ち回りで話題提供)開始。新入会者: 18名(含、金子熊夫氏)
- ・第6回、「今日のニュース」の会員への配布決定
新入会者: 19名(含、石井陽一郎氏、日立系9名)、合計105名
- ・第7回、HP記載内容の詳細審議。新入会者: 8名
- ・第8回、東電問題、中部電の配管破断問題など審議
- ・第9回、グリーンピースとの接触状況報告。原子力報道を考える会、尾崎氏中村氏ゲスト参加、HPを有効に活用しているとの報告。
- ・第10回、福島県のエネルギー政策検討会がまとめた中間報告にパブコメ対応決定
- ・第11回、日本の失われた10年とアメリカ他の飛躍(水町氏)。
- ・第12回、原子力学会春の大会で、「発言する会」の紹介(林)。
- ・第14回、新入会者4名(含、齋藤健弥氏)
- ・第15回、新入会者3名(含、藤井晴雄氏、西郷正雄氏)
- ・第16回、NPO「日本の将来を考える会」出席報告(林)。
- ・第17回、エネルギー基本計画審議

・ 編集企画のページ

原子力

わたってきたメーカーのOB
らに、今年四月、原子力に
関する正確な情報を社会に
発信していく「エネルギー
問題に発言する会」を設立
した。事故時報道などの際
に、メディアに対する意識
的で正しい情報の提供に特
に力を注いでいくことにし
て、組織の枠にとらわれ
ず技術者個人の責任、良心
に基づいて情報発信してい
くという同会の趣旨に、経
済産業省・資源エネルギー
庁も「ひびくも多くの人が
がエネルギー問題に関心を
持つ、理解を深めていくた
めの契機になれば」(電力
・ガス事業部原子力政策
課)と期待を寄せる。

「推進派が声を
上げられない」
同会発足を呼び掛けたメ
ンバーは、原子力発電技術
機構(NRDC)特別顧問
の石川正太郎氏、元北海道
大賞、元日本原子力研究
院、林博氏、元北海電
立製作所(天野敦男氏)副
幹事、元石川島播磨重
工業(松田恭尚氏)元副
幹事、元
三井物産(三
浦定時)の
ら、26人で、分
野は機械水型
軽水炉(BWR
型)、加圧水
型炉(PWR)

WRI)全般は、高濃縮
燃料(HEU)、次世代軽
水炉(SMR)、放熱炉、
水素燃料電池、プラントエ
ンジン、原子力船、原子
力関連技術の健全な普及を
目指している。

「正確な情報提供」賛同者続々
原子力の技術的な問題について知識をかけた発言
を行う。

「多様な意見を国民に発信」
長年の経験と知識生かし



技術系OBが「エネ問題に発言する会」

原子力の
今を考える

「多様な意見を国民に発信」
長年の経験と知識生かし
Bの歴史を、時局のなか
ろつた。「事故時、メ
ディアは茫然もたらない
。最近の原子力報道は、
水垢、サイクル、放射線、
水素燃料電池、プラントエ
ンジン、原子力船、原子
力関連技術の健全な普及を
目指している。

れた旧ソ連・チェルノブ
リ事故の続報を挙げる。
「事故後、被爆地域三
万一千五百人が亡くなった
という内容だったが、よま
く調べるとその地域の死
亡率と変わらない。二万
五千人が亡くなったとい
うのは事実だが、事故による
というのは明らかに関連
ない。意図的なものを感じ
る。」
マイナスマ面も
正確に伝える
正確に伝える
運営はすべてボランティア
。会でも最も力を入れる
のは多くの国民、すなわ
ち「サイレント・マジョリ
ティ」が十分な情報が得
られず、十分な議論がな
されないままエネルギー問
題の方向性が形成されてい
くことに対する警告発信。
技術以外でも、例えば、国
際的な含意に照らして「三
酸素(CO₂)排出抑制は
は現状では原子力しかあり
得ない」というような問題
にも、積極的にかかわって
いく。
も、どうも「マス面も正
確に伝える」会員間で必ず
しも意見が一致
しないことがあ
っても、エネル
ギイ資源の乏し
い日本の基礎工
業、エネルギーは原子
力の共通認識
は保持して、個
人の多様な意見
を尊重している。
「われわれは千百年以
上、火を止めてきたこ
とを思い出したい」(会員と
の思は、第1回座談会に
対するメッセージでもあ
る)。(山田 雄二)

第18回、幹事林1名体制から林(総務担当)、岩井(広報)、益田(技術)の3幹事体制とした。

第19回、新入会者:3名(含、山崎吉秀氏)合計152名

第20回、新入会者:1名、佐藤祥次氏

第22回、ハワイにて開催される国際会議PBNC(環太平洋原子力会議)に参加し、「発言する会」の活動を説明するようとの要請があり、林幹事が代表で出席することになったが、その経費負担問題で会費徴収またはカンパとするかで議論があり、有志カンパ(運営委員:¥6,000、一般会員:¥3,000)とした。
監査役に税所氏決定。

第24回、新入会者:1名、竹内哲夫氏

第26回、会のマンネリ化を防ぎ、活性化を図るために、「会の活性化分科会」を設けることとした。責任者:天野氏、サポート:松永氏、山名氏。新入会者:太組健児氏

第33回、新入会者:6名(含、金氏顯氏、中神靖雄氏)

第34回、「発言する会」と学生との対話を行う計画についての審議開始。

第37回、HP管理者:岩井氏→石井正則氏への変更。

第39回、地球環境問題議論が盛んになる。新入会者:3名(含、上田隆氏)

第41回、新入会者:堀雅夫氏

第50回、学生との対話報告多数になる。

第51回、金氏氏よりシニアネットワーク(SNW)の設立の経緯、役員、設立総会についての提案、説明。SNWで実施するシンポジウムに共催で参加する。

第57回、原子力立国計画審議。会員合計202名

第60回、新入会者:4名(含、齋藤伸三氏、宅間正夫氏)

第67回、新入会者:奈良林直氏

第68回、会場:NUPEC→原技協に変更(石川先生のご配慮大)

第77回、新入会者:4名(含、若林和彦氏)

第78回、新入会者:4名(含、辻萬亀雄氏)

第79回、新入会者:3名(含、青木直司氏)

第90回、保全学会の宮先生より、当会への寄付金申し入れ、50万円入金報告。
代償としてこれまでの歩みをまとめたCDを納入。

第106回、合計会員数:255名

第110回、HP担当石井正則氏→齋藤健彌氏

第112回、新入会者、2名(含、富樫利男氏)

第117回、合計会員数:265名

座談会テーマー1、最近のもの

2011/12/15	「再考が迫られる日本のエネルギー政策—東日本大震災を踏まえて」
2011/11/17	「PWRプラントの安全対策について」
2011/10/20	「関東から見る原子力災害の影響と今後の課題」座談会報告(PDF)
2011/9/15	「原子力発電所が受けた震災 事故の遠因とこれからの取組み」座談会報告(PDF)
2011/8/18	「福島事故後の原子力国際展開」座談会報告(PDF)
2011/7/21	「福島第1原子力発電所事故の教訓を踏まえた安全規制について」座談会報告(PDF)
2011/06/13	「日本原子力学会クリーンアップ分科会と関連する事項について」座談会報告(PDF)
2011/05/24	「福島第一原子力発電所問題」について懇談会記録(その2)(PDF)
2011/04/25	「福島第一原子力発電所問題」についての懇談会記録
2011/02/17	世界の原子力の最新動向(PDF)
2011/01/20	日本文化の特徴とこれからの日本(PDF)
2010/12/16	原子力政策大綱の見直しの要点
2010/11/18	次世代軽水炉プロジェクトの展開(PDF)
2010/10/21	核融合研究開発とITER計画・幅広いアプローチ活動(PDF)
2010/9/16	エレクトロニクスの苦戦とスマートグリッドの可能性
2010/7/15	原子力発電を中心に見た世界と日本
2010/6/17	これが正しい温暖化対策
2010/5/20	「誇張無しの持続可能エネルギー」と「2030年のウランリスクはあるか？」について
2010/4/15	今後の資源エネルギー政策の基本的方向について~「エネルギー基本計画」見直しの骨子~に対しどう考えるか
2010/3/18	高温ガス炉の研究開発の現状
2010/1/21	日本の原子力安全規制法制度の問題点について

座談会テーマー2、以前のもの(合計96テーマ)

<ul style="list-style-type: none"> ■ エレクトロニクスとスマートグリッド ■ 原子力を中心に見た世界と日本 ■ これが正しい温暖化対策 ■ 持続可能エネルギー量とウランリスク ■ 資源エネルギー政策の基本的方向について ■ 高温ガス炉の件開発の現状 ■ 安全規制法制度の問題点について ■ 持続的成長への提案 ■ 考古学年代とマイクロ秒測定 ■ 原子力法制 技術と法 ■ 柏崎刈羽発電所の耐震補強について ■ 極低線量被ばくのがんリスク ■ エネルギー技術戦略と燃料電池開発 ■ 既設原子力発電の出力向上について ■ 日本のプルトニウム利用 ■ 低炭素社会を支える電力インフラ ■ 地球環境を壊さないで食糧問題を解決する ■ 日本人の安全観 ■ 中越沖地震に対する対応 ■ 放射線問題について ■ 「もんじゅ」の現状と今後の取り組み ■ 地球温暖化抑止一水素技術の最近の進歩 ■ 高レベル放射性廃棄物の地層処分 ■ フランスの原子力産業とメディア ■ 放射線利用と海水ウランの回収 ■ 低炭素社会に向けた挑戦 ■ 原子力社会工学・法工学について ■ 規制の現状・問題点・対応策について ■ 東海発電所の廃止措置について ■ 新エネルギーの最近の動向 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ポスト「原子力立国計画」の行動計画 ■ 耐震設計審査指針の改定 ■ 欧米から学ぶエネルギー教育 ■ 環境対応車の今後の動向 ■ 今後の原子力を取巻く政策課題 ■ 検査制度の在り方検討会検討経緯 ■ 二酸化炭素分離回収・地中隔離技術 ■ エネルギー資源見直し ■ 学生とシニアとの対話in九州 ■ スーパー軽水炉の研究開発 ■ 電動推進自動車の現状と将来 ■ 原子力部会での議論 ■ 石油の無機起源説について ■ 軽水炉開発についての課題 ■ 日本の原子力の将来と軽水炉開発 ■ 4S炉(ベンシル炉)開発の現状 ■ 中小型炉の開発 ■ 原子力産業の現状と将来 ■ 脱温暖化社会の実現に向けて:脱温暖化2050 ■ ナトリウム冷却型高速増殖炉の開発の現状 ■ 長期の地球温暖化について ■ 中国のエネルギー事情と原子力動向 ■ 美浜3号機復水管破損事故に関する座談会 ■ IAEA国際基準改定について ■ JNESにおける新検査制度とその運用 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 原子力行政・規制のあり方 ■ 風力発電の電力系統への影響について ■ 「原子力長期計画」について ■ 高レベル廃棄物処理・処分 ■ 各電源の発電原価比較 ■ わが国原子力産業の革新的発展 ■ 原子力安全規制 ■ 浜岡原発の耐震設計 ■ 電力自由化 ■ リスク論に基づくエネルギー外部性研究 ■ エネルギー基本計画について ■ エネルギー教育について ■ 核燃料サイクルについて ■ 設備利用率向上を阻害している要因 ■ 日本の失われて10年とアメリカ他の飛躍 ■ 皆で見直そうこれからのエネルギー ■ チェルノブイリとTMI事故は日本で起こるか ■ 東電問題 この難局をこうして乗り切る ■ 環境問題と原子力発電 ■ 高齢年化とは何か? ■ みんなで選ぼうエネルギー
--	---	---

● **発展の足跡**

- ・HPの立ち上げ充実、原子力関係者、メディア、反対派等もアクセス。
- ・メディア取材歓迎方針。東電問題、福島事故等で多人数取材対応。
- ・メディア批判・評価。メディアとの交流(NHK)
- ・パブコメ対応多数。
- ・教育問題に注力。学生との対話推進。原子力学会SNWへ分身発展。
SNW東北、SNW九州にさらに発展。
- ・座談会での勉強成果の活用
政策提言多数。EEE会議との協調強化。
大学での講義(北大、東北大、東工大、日本女子大等)
学生との対話での基調講演
各種講演活動(原文振派遣、原子力有識者他)
メディアへの投稿多数。特に原子力eye,電気新聞
- ・シンポジウム多数回。SNW,EEE会議との共催。
- ・原子力ボランティア3兄弟団体の結束、役割分担

3兄弟団体	主力メンバー	役割
エネルギー会	原子力業界(メーカーOB主体)	問題の深掘り、対応策の検討等
SNW	学会関係者主体	学生との対話主体。行動部隊
EEE	政界、官界関係者主体	政策提言、政策関連勉強会

● **最後に、四字熟語で綴るエネルギー会の歴史**

四字熟語で綴るエネルギー会の歴史

一念発起 **初志貫徹** **多士済々**
和氣藹々 **実事求是** **天変地異**
艱難辛苦 **是々非々** **生々発展**